

今月のピックアップ

神奈川県川崎市、座間市の中学校給食導入と市によるアンケート調査の結果より

【川崎市、中学校給食導入に向けての意向調査を実施】

●中学校完全給食実施方針

神奈川県川崎市教育委員会は、2013年11月26日に、中学校給食の基本方針を会議決定しました。川崎市では現在、中学校給食はミルク給食のみで弁当持参、ランチサービス事業を行っています。新川崎市長が中学校給食導入を公約としたことや、市議会で2011年3月に「中学校完全給食の早期実現を求める決議」を採択したことなどから、教育委員会で検討し、「市の中学校において完全給食を提供することにより、さらなる食育の充実が図られること、育ち盛りの生徒にとって栄養バランスがあり安全・安心で温かい食事を摂ることができるなどのことから、中学校完全給食を実施することが望ましいとの結論」を得て、以下のような方針を示しました。

- 1 早期に中学校完全給食を実施します。
- 2 学校給食を活用した、さらなる食育の充実を図ります。

す。

- 3 安全・安心な給食を提供します。
- 4 温かい給食を全校で提供します。

また、これを受けて開かれた第1回中学校給食推進会議資料によると、2014年度中にパブリックコメント等を踏まえて実施方針を決定し、2016年度(平成28年度)より中学校完全給食を実施するスケジュールを示しています。

●中学校における昼食についてのアンケート

川崎市教育委員会は、2013年12月に中学校給食実施に向けてのアンケート調査を中学校1年生の保護者・生徒、小学校6年生の保護者・児童に対して行いました。

対象は、市立中学校全51校の1学年から各1クラス抽出、市立小学校のうち1区につき2校ずつ合計14校の6学年から各1クラス抽出し、それぞれ児童生徒と保護者に対して行われたものです。

そのいくつかを紹介します。なおコメントについては、川崎市のコメントではなく、学校給食ニュース側が独自につけたものです。

(表1) 配布・回収状況

対象者	配布数	回収数	回収率
全体	4,479	4,289	95.8%
保護者計	2,237	2,060	92.1%
中学校1年生 保護者(51校)	1,783	1,640	92.0%
小学校6年生 保護者(14校)	454	420	92.5%
児童生徒計	2,242	2,229	99.4%
中学校1年生 生徒(51校)	1,787	1,777	99.4%
小学校6年生 児童(14校)	455	452	99.3%

1: 弁当持参状況(表2)

中学校1年生では、約9割が家で作った弁当を毎日持参している一方、3%程度の生徒は家で作った弁当を持参していない状況です。

	回答	全体	保護者計	生徒計
1	毎日	90.6%	92.9%	88.6%
2	週に3~4日	5.9%	4.3%	7.3%
3	週に1~2日	0.7%	0.7%	0.7%
4	時々	1.1%	0.8%	1.4%
5	持ってこない	1.6%	1.2%	1.9%
6	無回答	0.1%	0.1%	0.1%

2: 生徒自身の弁当調理状況(表3)

中学校1年生では、約9割が生徒自身では弁当を調理したり持ってきていない一方、3%程度の生徒が週1回以上、自分で手作りして持ってきている状況です。

	回答	全体	保護者計	生徒計
1	毎日	2.5%	2.5%	2.5%
2	週に3~4回	0.6%	0.3%	0.9%
3	週に1~2回	1.2%	0.5%	1.9%
4	時々	7.1%	4.7%	9.4%
5	自分では作らない	73.1%	77.4%	69.1%
6	持ってこない	14.9%	13.6%	16.0%
7	無回答	0.6%	1.0%	0.2%

3: 保護者の希望、子どもの希望(表4)

保護者は、小学校の時のような完全給食を望む声が約8割あり、家庭の弁当は約13%程度で、学校給食を望む声が多くあります。一方、児童生徒で小学校の時のような完全給食を望む声は約3割、家庭からの弁当を望む声は約5割あり、児童生徒は家庭の弁当を望む傾向があります。

回答	全体	保護者計		児童生徒計			
		中1保護者	小6保護者	中1生徒	小6児童		
1 家で作った弁当	32.2%	13.3%	14.0%	10.5%	49.6%	48.5%	54.2%
2 ランチサービスの弁当	* 1.2%	1.0%	1.0%	0.9%	* 1.3%	1.6%	
3 店で売っている弁当やおにぎり・パン類	8.2%	0.2%	0.2%	0.0%	15.6%	14.5%	20.1%
4 小学校のような給食	52.8%	79.5%	78.4%	83.8%	28.2%	29.9%	21.5%
5 その他の食べ物	2.2%	0.1%	0.2%	0.0%	4.2%	4.3%	3.5%
6 無回答	3.4%	5.9%	6.2%	4.8%	1.1%	1.2%	0.7%

* 小学校6年生児童数も含めて全体の割合を算出しました。

4: 小学校給食の評価(表5)

現在学校給食を食べていない中学1年生と給食を食べている小学6年生に小学校の学校給食について聞いたところ、いずれも約6割強がよい評価をしており、「いやだった」というのは中学校で約1割、小学校で約5%となっています。

	回答	全体	中1生徒	小6児童
1	よかった	63.8%	64.0%	63.3%
2	いやだった	8.8%	9.7%	5.1%
3	どちらともいえない	27.2%	26.0%	31.6%
4	無回答	0.2%	0.3%	0.0%

5: 学校給食の味の評価(表6)

学校給食の味についても、約7割が「おいしかった」とし、「おいしくない」の評価は、全体でも5%程度と、味の面で高い評価が得られています。

	回答	全体	中1生徒	小6児童
1	おいしかった	70.8%	70.5%	71.7%
2	おいしくなかった	5.3%	6.3%	1.8%
3	どちらともいえない	23.8%	23.1%	26.5%
4	無回答	0.1%	0.1%	0.0%

6: 中学校給食への期待(表7)

中学校給食への期待としては、「献立に変化があり、いろいろなものがバランスよく食べられる」「温かいものが食べられる」ことに保護者、児童生徒とも期待が高くなっています。

回答	全体	保護者計			児童生徒計	中1生徒	小6児童
		中1保護者	小6保護者				
1 みんなと同じ物が食べられる	12.7%	11.6%	11.3%	12.6%	13.8%	12.1%	20.6%
2 献立に変化があり、いろいろなものがバランスよく食べられる	73.8%	88.4%	88.7%	87.6%	60.3%	59.3%	64.6%
3 好き嫌いをなくすきっかけとなる	17.7%	20.3%	18.5%	27.4%	15.3%	14.3%	19.0%
4 温かいものが食べられる	59.3%	70.2%	71.6%	64.5%	49.3%	52.3%	37.2%
5 特にない	10.6%	1.3%	1.3%	1.2%	19.2%	19.5%	18.1%
6 その他	2.4%	1.8%	2.0%	1.4%	2.8%	3.1%	1.8%

7: 中学校給食の課題(表8)

中学校給食を行う上での保護者や児童生徒が感じている課題として、保護者の約6割強は「特になし」と回答していますが、中学1年生は「準備や後片付けが大変」が約5割となっており、短い昼の時間に対する懸念を持っていることがわかります。

回答	全体	保護者計			児童生徒計	中1生徒	小6児童
		中1保護者	小6保護者				
1 給食より弁当のほうがおいしい	16.7%	5.7%	6.3%	3.6%	26.8%	25.7%	31.0%
2 嫌いな物を食べなければならぬ	21.8%	12.8%	13.2%	11.2%	30.1%	29.9%	30.8%
3 準備や後片付けが大変	31.7%	15.1%	16.5%	9.5%	47.1%	50.1%	35.2%
4 特にない	47.7%	64.3%	62.2%	72.4%	32.3%	30.8%	38.1%
5 その他	9.8%	14.9%	15.5%	12.4%	5.1%	5.5%	3.8%

8: 配膳について(表9)

食缶方式については、保護者の約8割が食器への盛りつけがあることから希望しており、児童生徒も、傾向としては盛りつけがある方が「ないほうがよい」よりも上回る傾向にあります。

回答	全体	保護者計			児童生徒計	中1生徒	小6児童
		中1保護者	小6保護者				
1 あったほうがよい	55.8%	80.3%	79.8%	82.4%	33.2%	33.1%	33.4%
2 ないほうがよい	14.8%	2.5%	2.6%	2.4%	26.2%	26.2%	26.1%
3 どちらともいえない	28.8%	16.9%	17.4%	14.5%	39.7%	39.7%	40.1%
4 無回答	0.6%	0.3%	0.2%	0.7%	0.9%	1.0%	0.4%

このほか、弁当については、保護者が衛生管理や栄養バランスの面に苦勞して配慮していることなどが結果として出ています。個別の記述としては、保護者からは、給食時間(準備や片付け等)や食事時間の確保への懸念が書かれています。また、給食の安全性については、食材の安全性として、遺伝子組み換え食品、農薬、食品添加物、産地、放射能への記述、衛生面や食中毒の心配などを書いている保護者がいます。

その他の項目(食育への関心等)と、実際のアンケート用紙については、川崎市教育委員会のホームページに掲載されています。ぜひ一度ご覧ください。

●政令指定都市中学校給食実施状況(川崎市まとめ)

川崎市が会議資料として、政令指定都市の学校給食実施状況を1枚の表にまとめていますので、転載しておきます。

川崎市、中学校給食実施に向けた取組について <http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000053750.html>

平成25年度政令市における中学校給食の状況

平成25年10月

政令指定都市名	学校数	給食の形態				給食以外の 昼食提供	備 考
		完全給食		ミルク 給食	未実施		
		全員喫食	家庭からの 弁当との 選択制				
1 札幌市	97	97					自校調理方式 21校 親子調理方式 76校(親38校、子38校)
2 仙台市	64	64					自校調理方式 11校 親子調理方式 1校(子) [全6施設(PFI2、委託2、直営2) センター方式 52校 ※うち委託1は小学校分のみ
3 さいたま市	57	57					自校調理方式 52校 親子調理方式 2校(子) センター方式 3校 全2施設(委託2)
4 千葉市	56	56					センター方式 56校 全3施設(PFI2、公設民営1)
5 川崎市	51			51		○	中学校ランチサービス事業 51校
6 横浜市	147				* 147		* 業者による校内での弁当販売 86校 業者による校内でのパン販売 10校 業者による校内での弁当とパン販売 10校 自動販売機でのごはん・パン販売 13校 学食の利用可 1校(高校附属中) 家庭からの弁当のみ 27校
7 相模原市	37	7	※ 30				センター方式 7校 全3施設(委託1、直営2) ※デリバリー方式 30校
8 新潟市	58	30	※ 28				自校調理方式 8校 親子調理方式 1校(子) センター方式 20校 全14施設(委託10、直営4) ※デリバリー方式 29校(内1校は全員喫食)
9 静岡市	43	32	※ 11				自校調理方式 1校 親子調理方式 1校(子) センター方式 30校 全9施設(PFI1、委託3、直営5) ※デリバリー方式 11校
10 浜松市	48	48					自校調理方式 35校 親子調理方式 1校(子) センター方式 12校 全6施設(委託4、直営2)
11 名古屋市	111	1	※ 109		* 1		自校調理方式 3校(※2校) ※デリバリー方式 107校 * 児童福祉施設内の食堂 1校
12 京都市	73	5	※ 66	* 1	* 1		親子調理方式 5校(子:全て校舎併設校) ※デリバリー方式 66校 * 高校附属中は食堂で昼食を提供 1校 * 家庭からの弁当のみ 1校
13 大阪市	130		※ 128		* 2	○	※デリバリー方式 128校 * 隣接する児童福祉施設の入所生徒が通学しているため、施設が食事を提供 2校
14 堺市	43				43	○	ランチサポート事業 43校
15 神戸市	82			82		○	中学校弁当販売事業 70校 校内での弁当販売 3校 校内でのパン販売 7校 家庭からの弁当のみ 2校
16 岡山市	38	36			* 2		自校調理方式 24校 親子調理方式 1校(親) センター方式 11校 全7施設(委託7) * [児童自立支援施設の食堂で食べている 1校 家庭からの弁当と校内パン販売 1校
17 広島市	64	21	※ 43				自校調理方式 5校 親子調理方式 3校(子) センター方式 13校 全6施設(委託1、直営5) ※デリバリー方式 43校
18 北九州市	62	62					親子調理方式 62校(子)
19 福岡市	69	69					自校調理方式 4校 センター方式 65校 全4施設(PFI1、委託3)
20 熊本市	42	42					自校調理方式 2校 親子調理方式 2校(子) センター方式 38校 全18施設(委託14、直営4)

平成25年3月
「中学校給食実施方針」を決定
※主な概要は欄外に記載

【神戸市中学校給食実施方針の概要】

- ・全員喫食を基本とする。但し、家庭弁当の持参も可能とする。
- ・デリバリー(ランチボックス)方式を採用する。
- ・平成26年度中に一部の中学校で、平成27年度中に全校で実施を目指す。

【神奈川県座間市の中学校給食をめぐるふたつの意向調査】

●中学校給食は弁当併用デリバリー方式

神奈川県座間市では、2009年5月から2011年3月まで「座間市立中学校給食のあり方検討懇話会」を設置し、中学校給食のあり方について検討しました。その結果、中学校では弁当併用デリバリー給食を導入するという基本方針を打ち出しました。

2013年6月から7月に保護者、児童生徒に対して、デリバリー給食に関するアンケート調査を行い、その胃結果を2014年1月に公表しました。

神奈川新聞2014年2月19日付けによると、2015年度より、2校で試行するための予算を計上したとのことで、同紙は「自校給食を断念」と報じています。

●ふたつの意向調査

座間市では、2010年に中学校給食に対する考え方などを聞くアンケートを実施、2013年度のデリバリー給食導入アンケートとともにふたつのアンケート結果が公表されています。

そのいくつかを紹介します。なおコメントについては、座間市のコメントではなく、学校給食ニュース側が独自につけたものです。座間市の評価については、各調査報告等をご覧ください。また、川崎市のアンケート結果と合わせてご活用ください。

■2010年7月アンケート(表1)

中学校給食のあり方を検討するために、弁当持参状況、中学校給食への関心等について聞いたもので、各中学校の各学年半数以上のクラスの生徒および保護者と、全教職員に対して行われたものです。

(表1)

	対象人数	回収人数	回収率
中学生	1,760 名	1,707 名	97.0%
保護者	2,041 名	1,324 名	64.9%
教職員	208 名	150 名	72.1%

1: 弁当持参状況(表2~4)

約9割が毎日家庭弁当を持参しています。家庭の弁当がない日は、半数以上が市販の弁当やパン類で、学校での業者弁当利用は25%程度となっています。その際、保護者が生徒に対して昼食代に渡す金額は400円から600円の範囲が多い結果となっています。

(表2 %) 家庭弁当持参率

	毎日	週4日	週3日	週2日	週1日	持ってこない	その他
中学生	86.6	7.7	1.6	0.4	0.5	0.7	2.5
保護者	91.3	5.1	1.0	0.4	0.5	0.5	1.1

(表3 %)

	市販の弁当やおにぎり、パン類	学校で注文できるお弁当(業者弁当)	牛乳などの飲み物	その他
中学生	56.6	24.8	1.8	16.7

(表4 %)

	300円未満	300円~399円	400円~499円	500円~599円	600円以上	その他
保護者	1.0	7.6	35.5	31.2	6.1	18.6

2: 弁当への関心(表5~7)

家庭弁当についての意向の調査では、教職員の期待と評価は大きく、相対的に中学生、保護者の期待と評価は少ない傾向にあります。特に、表5、表6に示した「家族の絆を深める」「昼食移管が短時間で済むことから時間が有効に使える」は、教職員の評価と中学生、保護者の評価が大きく異なっています。これほど大きな差ではなくても、「好みや体調に合わせて、おかずの内容や分量が調整できる」「アレルギー対応などきめ細やかにできる」「持ち帰った弁当箱の食べ残しなどで子どもの体調把握ができる」(保護者と教職員のみ調査)で教職員の評価が生徒や保護者の評価に対して10%以上高く、教職員は家庭弁当に対して、生徒や保護者よりも過度な評価を与えています。

一方で、表7にあるとおり、品質管理や衛生面では、保護者の不安に対して、教職員の不安は相対的に30%も低く、家庭弁当の品質や衛生面に問題ないという評価を示しています。

これは何を意味しているのでしょうか？ 学校給食への期待と合わせて考えてみます。

(表5 %)家庭弁当は、家族の絆を深める

	そう思う	思わない	分からない
中学生	35.9	24.4	39.8
保護者	52.6	20.5	26.8
教職員	87.3	4.0	8.7

(表6 %)家庭弁当は昼食時間が短時間で済むことから時間が有効に使える。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	36.3	27.4	36.3
保護者	29.3	34.4	36.3
教職員	85.9	9.4	4.7

(表7 %)家庭弁当は、夏場は傷みやすく冬は冷たいなど、品質管理が大変である。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	65.0	17.3	17.7
保護者	91.7	6.9	1.4
教職員	60.8	30.4	8.8

3: 中学校給食への期待と関心(表8~14)

先述の表7と表8を比較してください。保護者は家庭弁当より学校給食の衛生管理が優れているという意向を強く示していますが、教職員は保護者に比べると家庭弁当を高く評価し、学校給食の評価を低く見えています。

それは、学校給食の食育や好き嫌い、栄養や献立についての問いに対しても、総じて保護者に対し、教職員の評価が低い結果にも表れます(表9~11)

先述の表6と表12では、家庭弁当と給食での「時間」について聞かれており、教職員は給食導入によって「他の活動時間」が減ることを問題視していることが分かります。このほか、教職員は給食費未納問題に対しても保護者より30%以上高く問題視しています。

その上で、中学校給食の導入に対して、保護者は高い希望を示しているのに対し、教職員の約7~8割が否定的です。

このような中学校給食未実施の中学校教職員による学校給食への否定的な視点が現実に存在し、家庭弁当への高い評価の反映になっているのではないのでしょうか？

(表8 %)給食は衛生管理が良く安全・安心な昼食をとることができる。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	60.3	14.7	25.0
保護者	83.6	5.3	11.1
教職員	57.8	22.4	19.7

(表9 %)給食は献立表などが家庭での食育のきっかけとなる。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	34.4	25.7	39.9
保護者	71.5	11.3	17.3
教職員	39.6	41.6	18.8

(表10 %)給食は好き嫌いをなおすきっかけになる。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	43.3	37.9	18.8
保護者	77.6	13.9	8.5
教職員	34.2	47.7	18.1

(表11 %)給食は献立が変化に富みいろいろな物をバランスよく食べることができる。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	68.5	12.5	19.0
保護者	92.0	2.9	5.1
教職員	68.7	20.4	10.9

(表12 %)給食は準備や片付けのため、他の活動時間が減ることがある。

	そう思う	思わない	分からない
中学生	52.8	24.6	22.6
保護者	30.7	41.6	27.7
教職員	86.6	4.7	8.7

(表13 %)中学校での学校給食について。

	実施するほうがよい	実施しないほうがよい	分からない
中学生	51.2	27.9	20.9
保護者	86.0	6.5	7.5
教職員	24.8	66.5	8.7

(表14 %)中学校での昼食の方法

	現状のまま(家庭弁当・業者注文弁当・市販の弁当やパン等)	学校給食	その他
中学生	53.9	44.4	1.7
保護者	17.6	80.5	1.9
教職員	74.8	21.0	4.2

■2013年6～7月のアンケート

座間市は、弁当併用デリバリー給食を実施(試行)するにあたり、「中学校での昼食(給食)に関するアンケート」調査を行いました。市立中学校全6校の生徒、保護者、教職員ならびに、市立小学校全11校の5年生、6年生の全児童、保護者が調査対象です。

対象者	市立小学校5・6年生児童2,130名、保護者2,130名 市立中学校全学年生徒3,333名、保護者3,333名 教職員202名
アンケート調査期間	平成25年6月26日から平成25年7月12日まで
回収率	市立小学校5・6年生児童92.5%(1,971名)、保護者75.2%(1,602名) 市立中学校全学年生徒93.6%(3,119名)、保護者47.3%(1,578名) 教職員96.5%(195名)

アンケートは、デリバリー給食のイメージ、導入することで良い点、悪い点、導入の意向について聞かれています。まず、デリバリー給食のイメージとしては、「温かくない」という認識があります(表15)。

(表15) デリバリー給食のイメージ

	1.温かい	2.おかずが多い	3.量が多い	4.温かくない	5.メニューが少ない	6.量が少ない	7.その他	未回答
児童	12.4%	12.2%	21.2%	26.9%	7.9%	8.4%	9.9%	1.1%
生徒	16.2%	8.0%	11.9%	28.7%	10.3%	5.9%	17.6%	1.4%
小保護者	10.0%	7.8%	7.7%	45.5%	7.0%	5.4%	14.2%	2.5%
中保護者	9.3%	9.4%	10.7%	40.1%	7.4%	5.9%	14.7%	2.6%
教職員	13.3%	7.7%	7.2%	29.7%	16.9%	7.7%	14.9%	2.6%
全体	12.8%	9.2%	12.9%	33.6%	8.7%	6.4%	14.6%	1.8%

デリバリー給食の良い点としての問いは以下の6点

- (1) デリバリー給食は、家庭での弁当作りの負担が減る。
- (2) 食材・調理の衛生管理が良いなど、安全・安心な昼食を摂ることができる。
- (3) 毎日の献立がいろいろあり、あきがこなく、色々な物をバランスよく食べることができる。
- (4) デリバリー給食は、学校での昼食に必要な時間が短くて済むことから、時間が有効に使える。
- (5) 好き嫌いをなおすきっかけになる。
- (6) 給食費が前払いのため未納がない。

です。(4)の時間に関すること(後述)と、(5)の「好き嫌いをなおすきっかけ」については「そう思わない」との答えが多くみられ、あとは、問いに対して「そう思う」が多く出ています。

(2)の衛生管理については保護者の指示が約6割と高いですが(表16)、2010年の調査では約8割(表6既出)であったことを考えると、デリバリー給食への一定の不安があることが分かります。

(表16) 食材・調理の衛生管理が良いなど、安全・安心な昼食を摂ることができる。

	1. そう思う	2. 思わない	3. 分からない	未回答
児童	28.8%	24.7%	45.6%	1.0%
生徒	35.5%	18.9%	44.5%	1.1%
小保護者	60.8%	5.8%	33.0%	0.4%
中保護者	58.4%	6.3%	35.0%	0.3%
教職員	41.5%	19.5%	38.5%	0.5%
全体	43.10%	15.4%	40.7%	0.8%

2010年のアンケートでは、家庭弁当だと時間が短くて済むという評価を教職員がしており、学校給食を実施すると時間に影響が出ることを懸念する声が多くありました。生徒も教職員ほど差がないにせよ、同様の傾向があり、保護者は逆に時間が有効に使えるという結果を出していました。今回も同様の傾向が見られますが、デリバリー給食に関しては、「分からない」という回答が高く、デリバリー給食の実態について説明を受けても戸惑いがあることを示しています。

(表17)デリバリー給食は、学校での昼食に必要な時間が短くて済むことから、時間が有効に使える。

	1. そう思う	2. 思わない	3. 分からない	未回答
児童	20.2%	37.6%	41.7%	0.6%
生徒	16.3%	39.3%	43.5%	0.9%
小保護者	45.1%	15.4%	39.0%	0.5%
中保護者	37.5%	19.5%	42.8%	0.3%
教職員	28.2%	42.6%	28.2%	1.0%
全体	26.9%	30.8%	41.7%	0.6%

デリバリー給食の課題という点についての問いは、以下の5点

- (1) デリバリー給食は、アレルギーへの対応ができない。
- (2) 小学校の自校給食と違い、デリバリー給食は、調理したての温かいものが食べられない。
- (3) 中学生になると食べ物の好みなどから、食べ残しが多く出ることがある。
- (4) 給食費が前払いのため注文後のキャンセルが欠席日の直前ではできない。
- (5) 配膳室の整備や配膳員の配置に費用がかかる。

で、こちらも、総じて問いに対して「そう思う」が多く出ています。

表18は、中学校でのデリバリー給食と家庭弁当選択式の実施についてで、保護者は積極的ですが、児童生徒および教職員はあまり積極的ではありません。これに関し、実施希望の理由を複数選択制で問いがあり、児童生徒、教員とも「家庭での弁当作りの負担軽減」が最も多い回答となっていました。実施を希望しない理由も複数選択制で問いがあり、ここでは、「弁当を介しての家庭とのつながり」が児童生徒、教員とも最多回答となっていました。

(表18) 中学校でのデリバリー給食と家庭弁当選択式の実施についてどう思いますか。

	1. 実施するほうがよい	2. できれば実施するほうがよい	3. できれば実施しないほうがよい	4. 実施しないほうがよい	5. 分からない	未回答
児童	10.1%	16.3%	24.3%	27.8%	19.3%	2.1%
生徒	12.0%	17.9%	17.4%	22.5%	27.6%	2.6%
小保護者	48.0%	34.3%	4.5%	2.7%	9.4%	1.1%
中保護者	34.3%	40.1%	7.4%	4.6%	12.3%	1.3%
教職員	7.2%	23.6%	20.5%	28.7%	19.5%	0.5%
全体	22.4%	24.9%	14.8%	16.8%	19.2%	1.9%

表19は、実際の実施の意向をあらためて聞いてあり、設問としては「中学校での昼食(休業日での部活動等は除く)はどのような方法でとるのが良いと思いますか」とあります。

	1. 現状のまま(家庭弁当または学校で注文できる業者弁当や市販の弁当やパン等)	2. 学校給食(デリバリー給食と家庭弁当の選択方式)	未回答
児童	40.9%	24.1%	35.0%
生徒	56.8%	22.4%	20.7%
小保護者	12.9%	65.0%	22.0%
中保護者	20.2%	59.8%	20.0%
教職員	59.5%	21.5%	19.0%
全体	38.0%	37.8%	24.1%

表18、19と、中学校給食の実施意向を調べた2010年度の(表13)と比較すると、弁当併用デリバリー給食となったことえ、もっとも実施を希望する保護者でも、希望の比率は下がっています。

表20では、具体的な利用頻度の意向を聞いてあり、ここでは、児童生徒の利用希望率が低く、希望の多い保護者でも、「毎日」と「週2～3日」を合わせて約5割(中学校保護者)となっています。

(表20)デリバリー給食が実施された場合は、利用しますか。

	毎日	週2～3回	週に1回くらい	月に1～2回	利用しない
児童	6.8%	20.0%	16.8%	16.1%	35.3%
生徒	8.0%	11.3%	12.1%	20.2%	39.6%
小保護者	27.2%	34.3%	14.7%	9.9%	7.2%
中保護者	19.1%	29.5%	18.2%	14.0%	13.3%
教職員	10.3%	6.2%	8.2%	7.2%	46.2%
全体	13.5%	21.0%	14.7%	15.8%	27.7%

座間市はこれらの調査と検討を踏まえて、弁当併用デリバリー給食の試行に入ることになります。他の中学校完全給食未実施都市でも弁当併用デリバリー給食の導入が進められており、その利用率の低さが課題となっています。座間市の試行を通して、あらためて学校給食のあり方を考えるきっかけになって欲しいものです。

座間市 学校給食

<http://www.city.zama.kanagawa.jp/www/genre/000000000000/1335144713274/>

学校給食ニュース 160号

発行:学校給食ニュース
 編集:学校給食ニュース編集事務局
 会費:年額3,500円(4月から3月、送料込み年10回)
 〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15
 第2五ビル2階 大地を守る会気付
 全国学校給食を考える会
 お問い合わせは…全国学校給食を考える会
 電話:03-3402-8902 FAX:03-3402-5590
 E-mail kyushoku@member.daichi.or.jp (購読・会費等)
 E-mail desk@gakkyu-news.net (内容・投稿等)

学校給食ニュース発行団体

- 全日本自治団体労働組合・現業局
千代田区六番町1(電話03-3263-0276)
- 日本教職員組合・生活局
千代田区一ツ橋2-6-2(電話03-3265-2175)
- 日本消費者連盟
新宿区西早稲田1-9-19-207(電話03-5155-4765)
- 全国学校給食を考える会 左記住所、電話番号

時事情報(インターネットから) センター化、施設設備ほかの時事情報

(施設設備・運営)

■宮城県七ヶ浜町2000食の学校給食センター再建

宮城県七ヶ浜町は、東日本大震災で被災した学校給食センターを2012年度から移転新築し、2014年4月より、町内3小学校2中学校約2000食が配食される。

調理は委託で、主食・牛乳は別途学校に直送され、おかずのみ。3年契約で一富士フードサービスが受託した。

これまでは、多賀城市、松島町の給食センターおよび業者弁当で対応を続けてきた。

七ヶ浜町 <http://www.shichigahama.com/>

■高知県四万十市、中学校給食実施に向けた動き

高知県四万十市は、小学校15校、中学校11校の26校中、中学校10校を除いて3センターで学校給食を実施している。未実施の10校については、2014年度に、給食センターの実施設計等の予算をつけて、センター方式で導入する方針。

四万十市 <http://www.city.shimanto.lg.jp/>

四万十市の学校給食

<http://www.city.shimanto.lg.jp/kyouiku/school/kyuusyoku/>

■千葉県富里市、4500食の新センター

千葉県富里市は、現在の2つの調理場の老朽化に伴う統合建て替え工事を行っており、2014年9月より、新施設での学校給食提供を開始する。現在は、8小学校、3中学校、3幼稚園で、調理は委託。新センターは4500食。

富里市 <http://www.city.tomisato.lg.jp/>

(仮称)富里市学校給食センター施設統合改築工事について

<http://www.city.tomisato.lg.jp/0000005305.html>

■三重県名張市、中学校給食を保護者が要望

名張市 <http://www.city.nabari.lg.jp/>

■東京都福生市、中学校給食実施方針

福生市 <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

学校給食 <http://www.city.fussa.tokyo.jp/life/culture/supply/m1cpmb000001ulp8.html>

■奈良市、学校給食会を解散

奈良市 <http://www.city.nara.lg.jp/>

奈良市の外郭団体改革について

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1310703855698/>

(給食費)

■消費税増税による影響

- ・札幌市、月小学校250円、中学校200円の値上げ。食材高騰と消費税が理由(北海道新聞2014年2月25日)
- ・室蘭市、小学校1食16円、中学校1食17円増の値上げ。食材費の高騰が原因。5年ぶりの改定(室蘭民報2014年2月27日)
- ・千歳市、小中学生月額100円前後の値上げ。消費税増税を受け。(苫小牧民報社2014年1月18日)
- ・登別市、小学校1食20円、中学校1食24円の値上げ。食材高騰と消費税増税を受け。(室蘭民報2014年1月17日)
- ・秋田県内:秋田市値上げ方針、大仙市1食20円値上げ、横手市据え置き(3年前に1食20円を上げている)(読売新聞2014年3月1日)
- ・石川県内:金沢市月額300円(小中とも)値上げ、県内では6市町が値上げ方針(朝日新聞2014年2月18日)
- ・兵庫県篠山市、値上げ方針を撤回現状維持へ。市の要請による子育て世代支援重点のためだが、市からの追加補助等はない。(読売新聞2014年2月26日)

■岐阜県岐南町、無料化により人口増加?

岐南町 <http://www.town.ginan.gifu.jp>

学校給食費助成の手続き

<http://www.town.ginan.gifu.jp/guide/kyoiku/kyoiku/kyusyoku.html>

■匠瑳市、第3子以降は給食費減免

匠瑳市 <http://www.city.sosa.lg.jp/>

■和歌山県みなべ町、第3子以降を無料化

みなべ町 <http://www.town.minabe.lg.jp/>

■千葉県南房総市、給食費滞納で提供停止へ

給食費の値上げも行う。

南房総市 <http://www.city.minamiboso.chiba.jp/>

(衛生管理・食中毒等)

■ノロウイルス蔓延

- ・2月7日、秋田県大仙市で調理員が感染、2日間給食停止(秋田魁新報2014年2月7日)
- ・2月7日、秋田県湯沢市のセンター事務職員から検出。10日の給食を停止し、12日再開(毎日新聞2014年2月11日)
- ・2月10日、宮崎県小林市のセンター調理員から検出。12日、13日の給食停止(宮崎日日新聞2014年2月10日)
- ・2月17日、長野県伊那市の中学校給食調理員1名が感染。同日の給食を停止(毎日新聞2014年2月18日)
- ・2月18日、千葉県匠瑳市の給食センター調理員1名から検出。19日20日の給食を停止。匠瑳市では今年3回目(千葉日報2014年2月20日)
- ・2月18日、滋賀県守谷市の小学校の調理員1名が体調不良で欠勤し、ノロウイルス感染発覚。他の調理員は陰性。(毎日新聞2014年2月20日)
- ・2月25日、佐賀市のパン、米飯製造会社で従業員1人から検出。26日以降、佐賀市、武雄市、小城市、みやき町は、備蓄乾パンなどで対応(西日本新聞2014年2月27日)
- ・2月26日、福島県相馬市で飲食した学校給食調理従事者5人がノロウイルスで発症。同所で14人が飲食し、5校に関わっていたため、当面5校の給食を停止(福島民友2014年2月27日)
- ・2月26日、佐賀県嬉野市の給食センターで調理員1名から検出。27日から給食を停止し、調理員全員の陰性を確認してから再開予定(佐賀新聞2014年2月27日)
- ・2月26日、宮崎県立支援学校調理場の調理員1名から検出。27日給食停止(朝日新聞2014年2月28日)